

第41回関西バイオポリマー研究会

バイオベースプラスチックの実用化と最新の研究

日時 平成22年 3月 5日(金) 13:30~19:00
会場 京都工芸繊維大学 1号館3階 大学院会議室
(http://www.kit.ac.jp/01/01_110000.html)
(<http://www.kit.ac.jp/01/gakunaimap/matugasaki.html>)
参加費 無料 定員100名
主催 関西バイオポリマー研究会 産総研バイオポリマーコンソーシアム
京都工芸繊維大学創造連携センター
京都工芸繊維大学バイオベースマテリアル研究センター

【プログラム】

1. 挨拶 (13:30~13:35)
関西バイオポリマー研究会 代表 相羽 誠一

2. 「散乱法と分子モデリングで見る糖鎖の溶液構造」 (13:35~14:25)
京都工芸繊維大学大学院 物質工学部門 浦川 宏 先生

糖鎖の生理活性機能に関して、その機能と構造との相関を探る研究が注目され始めたのは比較的最近である。分子モデリングとX線散乱実験の結果を比較検討する手法を検証し、糖鎖の分子レベルでの構造の可視化を試みた結果を述べる。

3. 「ひまし油から作られるポリアミド」 (14:25~15:15)
アルケマ株式会社 京都テクニカルセンター 安田 真穂 先生

アルケマ社が50年にわたって製造しているPA11(製品名 リルサン® B)は、非食糧原料であるヒマシ油から作られる“炭素成分が100%植物由来であるエンジニアリングプラスチック”である。その性能を評価されて、様々な分野で利用されてきた。本講演では、PA11成分を核とした当社の植物由来プラスチックの開発戦略を紹介する。

— 休憩 — (15:15~15:35)

4. 「環境調和型改質 PLA 樹脂「エコラ」の開発」 (15:35~16:25)
花王株式会社 テクノケミカル研究センター化学品研究所 武中 晃 先生

ポリ乳酸は環境調和型樹脂として注目されているが、物性・生産性等の多くの課題がある。我々は独自の樹脂改質技術により、物性・生産性に優れ、かつ各用途の要求特性を満たす改質ポリ乳酸樹脂「エコラ」を開発したので紹介したい。

5. 「乳酸ポリマー生産用微生物工場の誕生秘話」 (16:25~17:25)
北海道大学大学院 工学研究科 田口 精一 先生

乳酸ポリマーの化学合成プロセスを微生物をプラットフォームとしたバイオプロセスに変換することに成功した。その鍵となったのが乳酸重合酵素の開発であり、合成された乳酸ポリマーの構造・物性と合わせて紹介したい。

6. 総会 (17:25~17:35)
産総研バイオポリマーコンソーシアム 中山 敦好

7. 交流会 (17:35~19:00)

【お問い合わせ】

産業技術総合研究所 関西センター バイオベースポリマー連携研究体内
産総研バイオポリマーコンソーシアム事務局

TEL:072-751-9522 FAX:072-751-8304 E-mail:biopg@m.aist.go.jp

又は、京都工芸繊維大学バイオベースマテリアル研究センター

TEL:075-724-7689 FAX:075-712-3956 E-mail:bmooffice@kit.ac.jp URL: <http://www.cbm.kit.ac.jp/>